

見ると1982年10月になって、 $-83^{\circ}\text{C}$ という低温が現れている。その後は1983年3月迄は平年並みに推移し、再び4月から7月迄は平年より低めになった後、8月から10月迄再び平年並み、そして11月に至って逆に平年より高めとなっている。

#### 4. おわりに

論文の中に、「この年(1983年)は、ペルー北部の激しい降雨と、南部のひどい干ばつによってもたらされた被害によって、ペルーの人なら誰でも忘れる事の出来ないであろう年である。」と書いてあった。我々にとっても、冷夏等の異常気象をもたらすエル・ニーニョ・イベントは、ペルーの人々にとっては、一層深刻な関心事であるようだ。

素人の私の興味を惹いたのは、1982年10月の始めに、圏界面に最低気温( $-83^{\circ}\text{C}$ )が出現し、それから4~5カ月を経て1983年2月に気温の鉛直勾配ならびに地表面温度(この場合ペルー沖の海面水温も最大値を取っていたことが考えられるが)の最大値が現れていることである。

この結果を読まれて、この方面の専門家の皆さんはどうお考えであろうか。1地点のデータではあるが、ご自分の数値モデルのチェックや解析に役立つことはないだろうか。或いは、もう少し詳しい生データを欲しいとか、現在エル・ニーニョ・イベントの発生が言われてい

るが、今後こういうデータを取って欲しい等と思われる方はいらっしやらないだろうか。そういう方は、是非トンゴ氏と直接コンタクトを取ってみたい。トンゴ氏にとってもそれは大きな喜びであろうと思うし、相互に利益になることは、間違いの無いことだと思う。

蛇足になるが、はからずもスペイン語を勉強する機会が与えられて、若い頃ロズさんだ「ある恋の物語(Historia de un amor)」の歌詞の意味が直接に理解できたこと、多くの偉大な芸術家を生みだした国スペインの文化へ一歩近づくことが出来たような気がして、トンゴ氏に大いに感謝している。

スペイン語から訳出(全文は測候時報58巻4号に掲載)にあたって、気象庁海洋気象部海上気象課の北島尚子氏に訳文を見ていただいた。また国際協力サービスセンターの佐藤千鶴子氏から貴重なアドバイスをいただいた。更にオゾン層解析室の高尾俊則氏には、専門家の見地から訳文とこの概要を閲読していただき有益なご指摘をいただいた。この場を借りて感謝申し上げる。トンゴ氏の住所を次にご紹介して筆を置くことにする。

SEÑOR JOSE PEDRO TONGO PIZARRO  
JEFE DE LA DIVISION DE  
METEOROLOGIA DEL ALAR 1  
AV. BOLOGNESI No 1099  
PIURA, PERU

### 講演企画委員会からのお知らせ——「スペシャル・セッション」のテーマ募集

1992年度春季大会からキーワード制が導入されます(12月号参照)が、スペシャル・セッションは今まで通りの方法で行われます(ただし春季大会については申込がないため休止)。秋季大会(札幌、10月7~9日)のスペシャル・セッションを下記の要領で募集します。なお、テーマや申込総数によっては講演企画委員会で調整をする場合もあり得ますので、ご了承下さい。

#### 記入事項:

1. セッションのテーマ
2. 趣旨説明(400字程度)

3. 呼びかけ人およびその連絡先  
以上は「天気」5月号に掲載されます。

申込先: 〒305 茨城県つくば市長峰 1-1  
気象研究所 予報研究部内  
講演企画委員会(藤部文昭)

申込期限: 1992年3月31日(火) 必着

なお、スペシャル・セッション、キーワード等に対するご意見・ご要望がありましたら、随時講演企画委員会(上記宛て先)へお寄せ下さい。